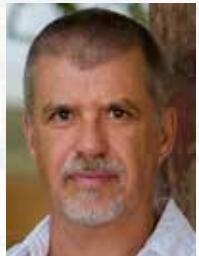


ヴィラ鴨川5周年記念 Creators@Kamogawa

地震、津波、原発事故に襲われた東日本大震災から、5年という歳月が過ぎました。しかし、被害の甚大さや遅々として進まない復興の様子を考えると、いまだ「過ぎた」と過去形では語れない状況です。震災発生から今日まで、文化芸術面で数多くの取り組みが行われてきたことは、同時に、被災地の人々にとって文化や文化的インフラがどれほど重要であるかを示しています。

折しも、アーティスト・イン・レジデンスとなったヴィラ鴨川と東日本大震災は、どちらも今年5年となります。これまでヴィラ鴨川に滞在したドイツの芸術家の中には、滞在中、東北地方を訪れ、その印象を作品に反映させた人たちもいます。ヴィラ鴨川5周年記念の本座談会では、東北で活躍する日本のアーティストとともに、被災地で受けた印象や、被災地での創作活動の限界と可能性などについて、意見を交わします。

座談会の後は、館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』にて、ドイツビールやおつまみを片手に交流をお楽しみください。交流会では、滞在中のドイツ人芸術家の作品も、モニターでご覧いただけます。



**ハンス=クリスティアン・シンク
Hans-Christian Schink (写真家)**

1961年生まれ。ライプチヒ視覚芸術アカデミーで写真を学んだ。現在ベルリンを拠点に活動。ドイツ、イタリア、アメリカなど世界各地で個展・グループ展多数。日本でも、東京・京都の国立近代美術館の『ドイツの写真の現在』展(2005/06年)等で作品展示。2012年冬のヴィラ鴨川滞在中、東日本大震災1年後の宮城・岩手沿岸部を訪れ、撮影を行った。2013年3月、写真集『Tohoku』をHatje Cantz社より出版。公式サイト www.hc-schink.de



**小山田 徹
Toru Koyamada (美術家)**

1961年鹿児島生まれ。京都市立芸術大学日本画専攻卒。在学中に友人達とパフォーマンス集団『dumb type』を立ち上げ、主に舞台美術と舞台監督を1998年まで担当。その後、様々な共有空間の開発を活動として行い、『Weekend Café』、『ハザールカフェ』などのコミュニティカフェの立ち上げなどに参画。東日本大震災以降、コミュニティの再生の企画を『対話工房』のメンバーとして行う。京都市立芸術大学彫刻専攻教授。



**ニス=モメ・シュトックマン
Nis-Momme Stockmann (作家、劇作家)**

1981年生まれ。ベルリンで脚本執筆を学び、2002年より作家・劇作家として活動。戯曲はベルリン・ドイツ座やハノーバー州立劇場など各地で上演され、高い評価を得る。フリードリヒ・ヘッペル賞、ヘルマン・ズーダーマン賞受賞。2016年に出版された自身初の小説『Der Fuchs (きつね)』は、ライプツィヒ・ブックフェア賞にノミネートされた。2012年2月、福島第一原発の避難区域を訪問し、ルポを執筆。2013年秋ヴィラ鴨川に滞在した。



**瀬尾 夏美
Natsumi Seo (画家、作家)**

1988年東京生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。土地の人びとのことばと風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。2012年より、映像作家の小森はるかとともに岩手県陸前高田市に拠点を移す。以後、元写真館に勤務しながら、まちを歩き、地域の中でワークショップや対話の場を運営。2015年、仙台市で、土地との協同を通じた記録活動を行う一般社団法人NOOK(のおく)を立ち上げる。公式サイト komori-seo.main.jp



**ダニエラ・ホーフェラー
Daniela Hoferer (美術家)**

1981年生まれ。芸術療法を学んだ後、ドレスデンで彫刻を学んだ。その後、「刺繡」という絵画に似た表現方法を用いて、伝統と現代の出会いや宗教的儀式が現代に持つ意味を問う作品を制作。作品はヨーロッパ各国で紹介されている。今秋のヴィラ鴨川滞在中は、布を用いる日本の多様な職人芸をテーマに、日本刺繡の技法やその精神的な側面、伝統的な織物工房の製作過程をリサーチする予定。ドレスデン在住。公式サイト www.danielahoferer.com



**小崎 哲哉
Tetsuya Ozaki (司会、構成)**

1955年東京生まれ、ウェブマガジン『REAL TOKYO』『REAL KYOTO』発行人兼編集長。CD-ROMブック『デジタル歌舞伎エンサイクロペディア』、写真集『百年の愚行』などを企画編集し、現代アート雑誌『ART IT』を創刊した。京都造形芸術大学大学院学術研究センター客員研究員、同大学院、愛知県立芸術大学講師。あいちトリエンナーレ2013のパフォーミングアーツ統括プロデューサーを担当した。2014年冬、編著書『続・百年の愚行』を刊行。『REAL KYOTO』 realkyoto.jp



ロートレンダーとコスキネンは、今秋のヴィラ鴨川滞在中、「現代の日本で男であることの意味は何か」を調査し、現代男性のアイデンティティ危機を追求するウェブドキュメンタリー『Being a man』を製作予定。

**ヨナス・ロートレンダー
Jonas Rothlaender (映画監督)**

1982年生まれ。ベルリンのドイツ映画テレビ・アカデミーを修了後、2010年よりベルリンで映画監督・作家として活動。作品はベルリン、シカゴ、カンヌなど世界各国の映画祭で上映されている。2015年、長編ドキュメンタリー映画『家族を持つこと』を発表。

**エヴァ=マリア・コスキネン
Eva-Maria Koskinen (脚本家)**

1984年生まれ。ヘルシンキでジャーナリズムを学び、2014年以降、ベルリンとヘルシンキで脚本家・ジャーナリストとして活動する。2013年、『クイーン・オブ・スプリントーズ』でパルヌ映画祭・最優秀実験ドキュメンタリーアワードを受賞。

交通のご案内

京阪電車 出町柳駅より 南へ徒歩8分
京阪電車 神宮丸太町駅より 北へ徒歩6分



主催・お問い合わせ

Goethe-Institut Villa Kamogawa

京都市左京区吉田河原町19-3
(川端通り荒神橋上る)

TEL: 075-761-2188 (内線 31#)

info@villa-kamogawa.goethe.org

www.goethe.de/villa-kamogawa



館内のドイツカフェ『カフェ・ミュラー』も、ドイツビールや軽食などをご用意して、皆様のお越しをお待ちしています。

